2018 年度

# 高校生国際協力実体験プログラム

# 報　告　書

2018 年（平成 30 年）

7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

独立行政法人　国際協力機構
九 州 セ ン タ ー（JICA九州）

# ＜目　　次＞

１．は　じ　め　に …… 1

２．高校生国際協力実体験プログラム報告

開　　会　　式 …… 3

自己紹介・アイスブレイク …… 4

国際理解ワークショップ「このＴシャツはどこから来るの?」… 5

青年海外協力隊活動計画作り …… 7

国際交流パーティー …… 9

青年海外協力隊活動計画発表 …… 11

振り返り・閉会式 …… 13

参加校一覧・スタッフ一覧 …… 14

３．添　付　資　料

・高校生国際協力実体験プログラム募集要項 …… 17

・アンケート集計結果（参加生徒・教員） …… 26

# 1. はじめに

## 【事業の結果概要】

1996年よりJICA九州は、九州地区在住の高校生を対象に、開発途上国への理解を深めることを目的とした「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しており、今回で23回目を迎えた。本年度も昨年度に引き続き、1泊2日での1回のみの開催となった。

本年度は九州5県から10校の応募があり、応募書類によって選考を行い、7校を合格とした。生徒19名、教員7名、合計26名の参加となった。

参加生徒19名の内訳としては、1年生と3年生が5名ずつ、2年生が9名であった。また、男子が9名であり、女子が10名とジェンダーバランスの取れた構成となっている。

事前学習として、各県国際協力推進員が参加校を訪れ、JICA事業の紹介を行った。また、参加する生徒達には、プログラム参加前の「国際協力」に関するイメージをウェビング[※1]により記述してもらい、プログラム後との比較を行った。

プログラムは7月26日と27日にJICA九州にて行なわれた。アイスブレイキングで緊張をほぐした後、国際理解ワークショップ「このTシャツはどこから来るの？」、青年海外協力隊活動計画作り（元青年海外協力隊員による体験談を含む）および計画発表、JICA研修員受入事業により各国からJICA九州に来訪している研修員との交流等を行なった。

生徒・教員に対するアンケートの結果からは、プログラムに対する満足度が高いことが伺えた。

生徒達の意見としては、「知らないことをたくさん知れたし、他校の人とたくさん話せたのでよかったです」「様々な人と交流ができたことは本当に幸せでした」「2日間とても充実していた」などがあった。2日間の短い期間についても、「あと1日いたかった」「時間の制限も思考を早くすることができて、とてもいいプログラムでした」「発表も内容も濃いものとなり、唯一無二の貴重な体験ができた」といった意見が挙がった。

プログラム全体を通しての参加者の評価は以下の通りである。

## 【アンケート結果】

・2日間を通してプログラムの内容の満足度は何％でしたか（26名中）

| 満足度（％） | 100以上 | 90～99 | 80～89 | 80未満 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 15人 | 8人 | 3人 | 0人 |

3分の2以上の参加者が90％以上の満足度を示しており、今回のプログラム内容が充実したものであり、参加者の期待に応えられていたことが伺える。

満足度が100％ではない理由としては、「今まで自分が何も知らなかったなと反省しています」「自分が協力隊の立場になったときにもう少し考えを絞れたのではないかと後悔が残っている」など、学びが深かったからこその意見や、「一番年下だから自分の意見を言うことができなくて90％になりました」と、異学年混在のチーム分けに対する意見も挙がった。

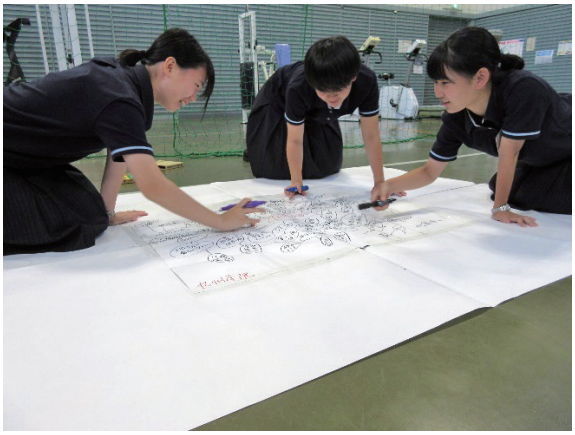
また、生徒・教員とも、JICA 研修員と交流する時間がもっとほしいという意見があるが、研修員の本来の来日目的である技術研修に支障をきたさない範囲で協力してもらう以上、なかなか要望に応えられないところである。

その他、参加教員からの要望や改善点としては、青年海外協力隊活動計画作りに関する時間が足りないという点を踏まえ、生徒同様、2 泊 3 日がよかったという意見や、このプログラムの回数を増やしてほしいという意見が挙げられた。

多くのプログラムにおいて「時間が足りず時間内に終えられなかった」「何を必要とされているのかを考え、それをまとめるということは大変だった」といった感想が挙がっている。今後も今回の反省を踏まえながらより良いプログラムを実施していきたい。

**※1「ウェビング」**

一つの題材・単語（本プログラムの場合は「国際協力」）を中心として、その題材から連想できるものを書き出していき、周りに網の目のように線でつなげていく方法。グループ内での各個人の意見を共有し、課題抽出や課題解決などの計画策定に用いられる手法。



（ウェビングの様子）

## 2.　高校生国際協力実体験プログラム報告

【プログラム名】

### 開　会　式

担当：和田　仁智（佐賀県国際協力推進員）

### (1)　ね ら い

・ プログラムの開会をもって参加への意識を高める。

・ プログラムの目的および意義を確認することでより効果的なプログラムを目指す。

・ プログラム運営スタッフを紹介し、青年海外協力隊経験者の存在を認識する。

### (2)　概　　要

「高校生国際協力実体験プログラム 2018」を開催するにあたり、JICA 九州センター所長の植村吏香が開会の挨拶を行った。

JICA が実施している国際協力事業について説明を行った後、本プログラムの意義、本プログラム中だけでなく、事後も本プログラムで得た気づきや学びを深めてほしいという参加者への期待を述べた。開会挨拶後、2 日間を共に過ごすスタッフ（九州各県の国際協力推進員、（特活）九州海外協力協会職員）が自己紹介と本プログラムの流れ、諸注意、2 日間を九州センターで過ごすにあたっての注意事項、諸連絡を行った。

（開会挨拶の様子）

（スタッフ自己紹介）

【プログラム名】

## 自己紹介・アイスブレイク

担当：阿南　栄子（熊本県国際協力推進員）

### (1) ね ら い

・ プログラムの最初に参加者同士の交流を深め、お互いに知る。
・ 積極的参加の姿勢を自覚してもらう。
・ 自由な自己表現を引き出し、受け入れられる雰囲気作りを行う。
・ SDGs について知る。

### (2) 概　　要

事前学習時に出していた宿題、学校新聞紹介壁新聞を各学校１分間ずつ発表した。

全体ワークとして言葉を話さずに誕生日順に並んでもらい、その後両隣同士、日本語以外の言語で２分ずつ雑談してもらうバースデーチェーンを実施。

グループワークとして、事前に仕込んだ名札の SDGs アイコンマークごとに集まってもらい、４つの窓を用いグループ内で自己紹介後、SDGs についての概要説明をした。認知度が低いことを課題として広報担当になってもらう、という設定で「一言多い張り紙」を作成し、グループごとに発表してもらった。

### (3) 参加者からの声

**【生　徒】**

・ いろんな県の学校の特徴を知ることができ、誕生日順に隣の人と挨拶をするのが楽しく交流をすることができ、よかった。
・ 自分のことを全く知らない人に自己紹介を一から行うことの難しさを痛感したとともに一からやることで自分の印象が決められる場が新鮮だった。

**【教　員】**

・ それぞれの学校がとても工夫した壁新聞を作っており、よかったと思う。
・ 言葉を用いずに身振り手振りで誕生日を伝えて並ぶのは面白い。学校でも入学時や進級時に使わせてほしい。
・ グループでの自己紹介はフリートークの時間があると打ち解けやすいかもしれない。

（学校新聞を用いて学校紹介）

（バースデーチェーンの様子）

【プログラム名】

## 国際理解ワークショップ　ファッションを通して考える国際協力
## （教材「このＴシャツはどこからくるの？」を使用）

担当：佐保　好信（大分県国際協力推進員）、阿南　栄子（熊本県国際協力推進員）

### （1） ね ら い

・ ファッションをテーマにすることで、高校生にとっても分かりやすく、自分達も関わっている問題だと気付くことが出来る。

・ 夏季に合わせて、「このＴシャツはどこからくるの？」のワークショップを実施。原料であるコットンについて説明し、そこに児童労働や環境問題があることを知ってもらう。

### （2） 概　　要

自己紹介、体験談発表（服飾隊員の活動、縫製工場勤務時の話）、ワークショップという流れ。参加者にワークシートを配布し、Ｔシャツ１枚あたりの値段の内訳を考える。その後、配役カード（1グループ６名分）を配り、それぞれのグループでロールプレイ。インドのコットン農家で働く女の子と母親、経営者、中国の縫製工場、日本のアパレル会社、一般の消費者(大学生の女の子)という配役。アドバイスカードを配り、改善策を探る。「自分に、私たちに何ができるのか？」をチャートにまとめ、最後に発表。

**＜内　容＞**

① Ｔシャツ１枚あたりの営業利益、販売管理費、縫製、付属品、原料を予想。
② ロールプレイ。インドの親子、経営者、中国の縫製工場、日本のアパレル会社と消費者。
③ アドバイスカードを読み上げ、実際におこっている問題を説明。
④ それぞれのアイデアを共有し、チャートにまとめる。
⑤ グループごとに発表。グループでまとめた意見、ユニークなアイデアなど。
⑥ 現実におきた事件と、環境に配慮したものづくりを行っている企業を紹介。
⑦ 質疑応答、終了。

（Ｔシャツ１枚あたりの値段の内わけ）

（グループごとにまとめた意見を発表）

### （3） 参加者からの声

**【生　徒】**

・ テレビやネットで知る情報とは違い、リアルな現状を知ることができた。

・ 高校生の自分たちが何か行動するだけでも、変わることがあると思った。

・ 児童労働や環境問題など、世界でおきている問題についてもっと知りたい。

**【教　員】**

・ 専門知識と経験に裏打ちされていて、説得力があった。

・ T シャツの値段の内わけがどうなっているかを推測。身近なものを取り上げていたので、考えやすかったです。

・ ファッションという身近なものが、児童労働などの問題に繋がっている。エシカルファッションという言葉を知らなかったので、とても勉強になりました。

【プログラム名】

## 青年海外協力隊活動計画作り

担当：田代　芽衣（宮崎県国際協力推進員）、茂田　敬介（長崎県国際協力推進員）

### (1) ね ら い

青年海外協力隊になりきり、村をよりよくするための活動計画作りを行うことで、

① 現地の人びとにとって本当に必要な支援とは何かを考える

② 青年海外協力隊として村人を巻き込んだ計画を立てる

### (2) 概　　要

**＜設　定＞**

架空のウェストティモール国バリボ村の村役場へコミュニティ開発隊員として派遣された設定で、2年間の活動計画を作成した。活動内容の要請は「現地の伝統や文化を尊重しながら、共により良い村づくりに協力すること」であるが、まずは、派遣された村の現状や関係者を調査し、地域の良い点・課題点を見出した。それらをもとに活動計画を作成する上での考慮事項として、「実現可能性」「妥当性」「持続性」「独自性」をあげ、4つの観点が翌日に行われる計画発表の評価となることを伝えた。

**＜形　態＞**

グループ活動（生徒：3～4名×5グループ、教員：7名×1グループ）

**＜内　容＞**

**■ 導　入**

・ プログラムの全体説明

・ コミュニティ開発隊員の説明

**■ 村の状況把握・情報整理**

・ 地図上で村の位置を確認

・ 写真から読み取れる村の様子をもとに、気付いたことを書き出す

・ リソース分析（村に存在する資源のリストアップ）

・ 出た意見をグループ内と全体で共有

**■ 実際のコミュニティ開発隊員の活動の事例紹介**

・ 体験談発表者：茂田　敬介（派遣国：ザンビア）（長崎県国際協力推進員）

**■ 村の良い点・課題点の発掘**

・ 村の概要シートから情報を収集

・ 得た情報から良い点・課題点を洗い出し、ポストイットへ記入

**■ 課題点の解決に向けた取り組みの優先順位づけ**

・ ダイヤモンドランキングを用いて、グループ内で解決事項を順位化

・ 課題点の解決案（アイデア）を作成

・ 良い点を更に向上させるためのアイデアの書き出し

・ 意見をポストイットへ記入し、グループ内で共有

■ **実際の活動計画作成**

＜設定＞の考慮事項を念頭に置き、「活動計画名」「対象者」「協力者」「村の現状」「活動内容」「目指す村の将来のイメージ」を取り入れた計画作り。

■ **JICA 事務所（企画調査員）の配置**

青年海外協力隊等ボランティアの良き相談相手となり、個々のボランティア業務を支援する企画調査員役を配置した。実際に経験のある JICA 九州の職員 2 名（井口・東）の協力を得て、計画作成中の質疑に対応した。

### （3） 参加者からの声

**【生　徒】**

・ チームでじっくり考えとても良い計画が作れた。みんなで沢山の意見を出し合い、じっくり考え、改正する。最終的にみんなが納得のいく素晴らしい計画が完成した。とても達成感があった。協力することは楽しい！

・ どんなことが村の為にできるのかについて一から考え、アイデアを出すことは難しかったが、色々な要素を踏まえて自分たちにできる方法を見つけることは楽しかった。

**【教　員】**

・ 考えるプロセスを示していただいたので、難しかったですが意見を出し合うことができました。教員チームよりも高校生の方が作業が進んでいたり質問に行くのが早くて感心しました。

・ 実際に協力隊に行ったかのような感覚で作業を進めることができた。実際は細かな情報収集に非常に時間がかかるのだが、高校生にとってはあれくらいしっかりと情報を与えられていた方が考えやすかったと思う。（協力隊 OB 教諭）

（村の課題点の分析）

（活動計画作成～企画調査員への相談～）

【プログラム名】

## 国際交流パーティー　～研修員の国・文化を知り、世界の料理を味わおう～

担当：森川　大毅（福岡県国際協力推進員）、外西　朋子（鹿児島県国際協力推進員）

### (1)　ね ら い

- JICA 研修員との交流を通して異文化への理解を深める。
- 十分に言葉が通じない相手とのコミュニケーションを体験し、コミュニケーション能力を高める。
- 相手を理解しようとすることの大切さや意義に気付き、日常生活へも通じることに気付く。
- 世界各国の料理を味わうことで食文化の違いを理解し、また日本食を紹介することにより自国の食文化を振り返る。

### (2)　概　　要

JICA 研修員 1 名が高校生の各グループに入り、自己紹介や研修員の国の食事情調査及び発表を行った後、交流食事会を行った。

JICA 研修員　廃棄物管理技術 A コース５名
（バングラデシュ・エチオピア・インド・フィリピン・スリランカ）

- プログラムの趣旨を説明
- 研修事業､JICA 研修員について確認（YouTube『研修員受入事業 60 年－日本の経験･知見を伝える－ダイジェスト版』）
- 全体での JICA 研修員紹介
- グループに分かれて各自の自己紹介
  高校生、名前・出身県・年齢（学年）　研修員、名前・出身国・職業
- 研修員の国の食事情調査、テーマ：よく食べている料理
  該当する料理について材料や作り方、食べ方や食べるタイミング等について JICA

（JICA 研修員の国の食事情調査）

（JICA 研修員との交流食事会）

研修員にインタビューする。聞きとった内容を高校生が模造紙にまとめ、全体に発表した。
（各班１分間で可能な限り英語での発表）

・ 交流食事会、バイキング形式で食事をとり各班で会食した。
・ 食事終了後、各研修員に交流パーティーに関する感想を発表してもらった。

### （3） 参加者からの声

**【生　徒】**

・ 単語だけになってしまっても研修員の方は理解しようとしてくれて会話することができた。でも、もっと英語が話せるようになりたい！
・ 交流を通じて外国の方と会話する難しさを知ることが出来た。食事をすることで少し打ち解けた気がして楽しかった。
・ 交流を通して、言語や伝統・文化の大切さを改めて感じた。様々な国を知るためにも言語をきちんと学習しようと思った。
・ 食べたことのない食べ物に挑戦でき、他の国の文化に触れることが出来た。

**【教　員】**

・ 生徒たちが普段接する外国の方は、ALT など、生徒をもてなし楽しませてくれる方ばかりです。生徒の方から話題を提供し、言葉を引き出す経験は学校ではできないことで、本当にありがたかったです。
・ 欧米以外の人々も堂々と英語で話をする姿を見て、生徒たちは英語力の大切さと、追加して１か国語、２か国語を使えるようになれば、更に世界が広がると感じたはずです。

【プログラム名】

## 青年海外協力隊活動計画発表

担当：田代　芽衣（宮崎県国際協力推進員）、茂田　敬介（長崎県国際協力推進員）

### (1) ね ら い

・ 前日のプログラム「青年海外協力隊活動計画作り」で各グループにて作成した青年海外協力隊としての「活動計画」を発表する。

・ 大勢の人の前で発表する経験を通じて、自分の考えを伝えること、人の話を聞くことの大切さに気付く。

・ 他のグループの発表で異なる意見を聞くことや質疑応答により、新たな視点を知り、国際協力に対する理解を深める。

### (2) 概　　要

活動計画の発表後、生徒５グループの発表に対し評価・投票を行い、その中の上位２グループを表彰する。（最優秀賞・ていたん賞）教員グループも発表するが、評価・投票は対象外とする。

以下は当日の流れである。

発表前の活動として「ナマステ体操」を行い、緊張を解いた。生徒も積極的に体操に参加していた。

**①　ルールの確認と評価シートの説明**

１グループ６分以内で全員が発表し、３分間の質疑応答の時間を設けることを説明した。

発表は村人を対象に行い、質問は村人の立場からでも青年海外協力隊の立場でも良いこと、また計画内容を作成した背景や理由についても触れることを確認した。

投票は、評価シート（評価項目は実現可能性・妥当性・持続性・独自性の４つを５段階で採点）を参考に行うこととした。

**②　活動計画発表**

15分間の発表練習をした後、６グループ（教員１グループ・生徒５グループ）が順番に発表を行った。

作成した計画内容は、保健衛生、環境教育、栄養改善など様々であり、計画した活動を現地住民に協力してもらえるような呼びかけをしたり、各グループの個性がだされた発表形式もあるなど、工夫が凝らされていた。

評価の面でJICA九州の職員にも協力してもらい、実際を想定した質問やコメントがあった。また、後半になるにつれ生徒間で活発な質疑応答が交わされた。

**③　投　票**

生徒、引率教員、JICA九州職員、国際協力推進員が行い、獲得票数が多い順に１位・２位のグループを決定し、表彰した。

④　講　評

JICA 九州市民参加協力課課長の江頭が、グループごとに講評を行い、実際の国際協力の現場での事例も紹介しながら良かった点や改善点に言及した。

⑤　まとめ

各校混合でのグループ活動がこの時間で最後になることから、これまでの活動を通した気付きや学び、感想などをグループ内で共有して、締めくくりとした。

## (3)　参加者からの声

**【生　徒】**

- 周りの班の考えやどの視点で考えているのかを知ることができて良かったです。また、自分たちのもっていないアイデアが出ていたので自分自身の考え方も変わり、知識をつけることができた。
- 準備が完璧だったとは言えないが、班の人と協力してできる限りの発表はできたと思う。質疑応答で新たな課題が見つかったのも良かった。
- 前の日からチームで練習していた成果を十分に発揮することができた。私たちの計画を村の人にわかりやすく伝えるため気持ちを込めて発表することができた。見事、最優秀賞を取ることができた。とても嬉しかった。チームのみんなに感謝。

**【教　員】**

- どのチームも短時間の準備にもかかわらず、立派なプレゼンが実現して感動しました。昨日初めて会ったばかりの他校生とでも目的意識をしっかりと持たせればよい活動ができると知りました。
- JICA の方の質問のおかげで色々な問題点が見えてきてとても面白かったです。更に改善点を考えたり、計画を立て直したりするといいと思いました。学校に帰ってから考えさせたいと思います。
- 私も、協力隊に行く前にこのような計画づくりをしておけば違った 2 年間になっていたかもと思えるような発表でした。もちろん現実はまた違った感じではありますが、高校生らしい発想とプレゼンで大変楽しめました。（協力隊 OB 教諭）

（発表の様子）

（講評時の会場の様子）

【プログラム名】

## 振り返り・閉会式

担当：和田　仁智（佐賀県国際協力推進員）

### (1)　ね ら い

・　２日間のプログラムを振り返ることで学びを整理する。

・　参加生徒が今後、学校で取り組みたい目標を立て、各学校での継続につなげる。

### (2)　概　　要

**＜振り返り＞**

学校毎にグループとなり、2日間のプログラムの振り返りを行った。振り返りの趣旨、流れを説明し、事前学習で作成した「国際協力」をテーマとしたウェビングに5分間で追加記入してもらった。その後、学校で今後取り組みたい目標について話し合ってもらい、全体に向けて各学校約1分で発表した。

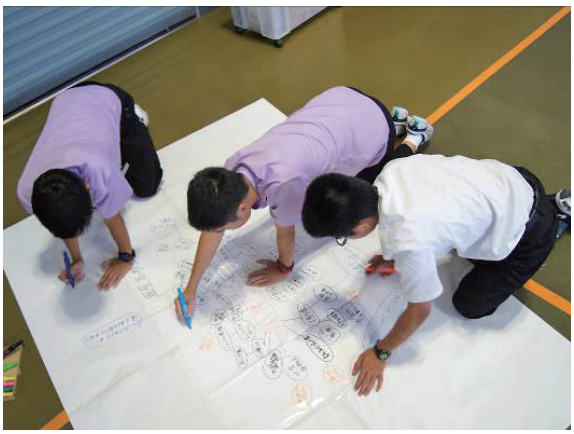
**＜閉 会 式＞**

JICA 九州センター次長の高城元生が閉会の挨拶を行った。プログラムを振り返り、参加生徒や教員の方々へ感謝、今後の取り組みについての期待と、伝えることと継続することの大切さについて述べた。その後、参加者全員で記念写真撮影を行い、アンケート回収後解散とした。

### (3)　参加者からの声

・　まず知ることが大事だと思った。私たちが学んだことを学校のみんなにも知ってもらうために、ポスターや放送を通して発信していきたい。

・　国際協力をすることも、国際協力を学ぶことも継続が大切だと思う。



（ウェビングに追加記入）

（今後の目標を各学校で発表）

# 2018 年度 高校生国際協力実体験プログラム 参加校一覧

＜７月 26 日（木）～７月 27 日（金） 生徒 19 名、教員７名　計 26 名＞

| | 県 | 立 | 高等学校名 | 生徒 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 男 | 女 | 教員 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 福岡 | 私立 | 久留米信愛 | 2 | 2 | | | | 2 | 1 |
| 2 | 福岡 | 私立 | 自由ヶ丘 | 3 | | 3 | | 3 | | 1 |
| 3 | 長崎 | 私立 | 南　　山 | 3 | | | 3 | 3 | | 1 |
| 4 | 熊本 | 私立 | 九州学院 | 3 | | 3 | | | 3 | 1 |
| 5 | 熊本 | 県立 | 宇　　土 | 3 | | 3 | | | 3 | 1 |
| 6 | 熊本 | 県立 | 天　　草 | 2 | 2 | | | | 2 | 1 |
| 7 | 鹿児島 | 県立 | 鹿　　屋 | 3 | 1 | | 2 | 3 | | 1 |
| 小　　計（人） | | | | 19 | 5 | 9 | 5 | 9 | 10 | 7 |

# プログラム実施スタッフ一覧

| | 所属 | 名前 | 任国 | 職種 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 福岡県国際協力推進員 | 森　川　大　毅 | 大洋州・バヌアツ | 小学校教育 |
| 2 | 佐賀県国際協力推進員 | 和　田　仁　智 | 東アフリカ・ケニア | 青少年活動 |
| 3 | 長崎県国際協力推進員 | 茂　田　敬　介 | 東アフリカ・ザンビア | コミュニティ開発 |
| 4 | 熊本県国際協力推進員 | 阿　南　栄　子 | 西アフリカ・ニジェール | 感染症対策 |
| 5 | 大分県国際協力推進員 | 佐　保　好　信 | 東南アジア・フィリピン | 服　　飾 |
| 6 | 宮崎県国際協力推進員 | 田　代　芽　衣 | 東南アジア・ラオス | 看　護　師 |
| 7 | 鹿児島県国際協力推進員 | 外　西　朋　子 | 東南アジア・ネパール | 野　菜　栽　培 |
| 8 | （特活）九州海外協力協会 | 米　村　淳　平 | 大洋州・ミクロネシア | 小学校教育 |

※ 他、「県立学校等初任者研修に係る学校による体験活動研修」の一環で福岡県立戸畑高等学校の河津凌教諭に実施スタッフ補助として参加していただいた。

## 3. 添付資料

高校生国際協力実体験プログラム募集要項

# 世界・仲間・自分、発見！

## 事前に知っておこう！

### JICA（ジャイカ）とは？

JICA（国際協力機構）は、日本政府の開発途上国へのODA（政府開発援助）を行う組織です。

### 青年海外協力隊って？

JICAが実施する海外ボランティア派遣制度です。開発途上国で現地の人たちと生活を共にし、貧困や環境など、その国の抱える課題に取り組みます。

### JICA 九州とは？

JICAの九州における国際協力の拠点です。開発途上国から日本の技術を学びに来た人たちのための研修施設もあります。

## Start

### 事前学習

●各校にて実施します

「国際協力」ってなんだろう？

「実体験プログラム」への参加前に、各地の国際協力推進員と一緒に国際協力について考えてみよう。

## Program

・ワークショップ・

## Support staff

JICAボランティア経験者である各デスクの国際協力推進員たちが、プログラム全体をサポートします。

**JICAデスク 福岡**
(公財)福岡よかトピア国際交流財団内
TEL092-262-1714
jicadpd-desk-fukuokashi@jica.go.jp

**JICAデスク 佐賀**
(公財)佐賀県国際交流協会内
TEL0952-25-7921
jicadpd-desk-sagaken@jica.go.jp

**JICAデスク 長崎**
(公財)長崎県国際交流協会内
TEL095-823-3931
jicadpd-desk-nagasakiken@jica.go.jp

**JICAデスク 大分**
(公財)おおいた国際交流プラザ内
TEL097-533-4021
jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

**JICAデスク 熊本**
(一財)熊本市国際交流会館内
TEL096-359-2130
jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp

**JICAデスク 宮崎**
(公財)宮崎県国際交流協会内
TEL0985-32-8457
jicadpd-desk-miyazakiken@jica.go.jp

**JICAデスク 鹿児島**
(公財)鹿児島県国際交流協会内
TEL099-221-6624
jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

# 九州各地の高校生たちと世界を感じる2日間！

「JICA九州 高校生国際協力実体験プログラム」は九州各県から集まった仲間が
1泊2日を共にし、世界と自分とのつながりを体感する、高校生のための国際協力入門講座です。

## 多様な文化に触れる

九州各地から集まった仲間たちと親睦を深め、日本に研修に来ている開発途上国の人たちとの交流や世界の料理を楽しもう！

*Time Table*

10:00～　開会式（10分）
10:10～　アイスブレイク、自己紹介（50分）
11:00～　ワークショップ（90分）
12:30～　昼休み(60分)
13:30～　計画作り（210分）
17:00～　チェックイン
18:00～　交流パーティー(120分)
20:00　終了

## 青年海外協力隊になる

青年海外協力隊になりきって、自分に何ができるか考えて発表してみよう。現地の人たちに本当に必要とされる支援って何だろう？

*Time Table*

9:30～　計画発表(120分)
11:30～　振返り(60分)
12:30～　閉会式・写真撮影(30分)
13:00　終了

※プログラムの内容や時間は変更する場合があります。

## Goal

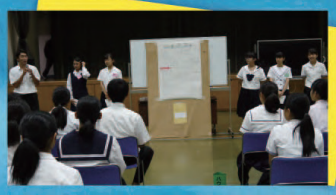
### 事後学習

●各校にて実施します

**自分の変化を伝えよう！**

「実体験プログラム」で感じたこと、考えたことを表現し、周りの人に伝えよう。

・発表会・



・交流会・

JICA九州

# 高校生国際協力実体験プログラム

## グローバルな人材を育てる参加型の「学び」

［国際理解］世界の状況や国際協力の現状に気づき理解を深める。
［交　　流］他校からの参加者や青年海外協力隊経験者、外国人との交流を通し、様々な価値観に触れる。
［進路・生き方］自分を見つめ直し、世界の中でどう生きるのか考えることで、将来の進路選択に役立てる。

### 日程

**7月26日（木）・27日（金）** ※開催は1回のみ

・プログラムの流れ・

**事前学習**　7月に国際協力推進員が各校を訪問し事前学習を実施します。日程など詳細については、各地の国際協力推進員にご相談ください。

**本プログラム**　2日間の全日程にご参加ください。

**事後学習**　例年の参加校はプログラム終了後、学校行事や各地の国際交流・国際協力イベントなどで、本プログラムの成果を発表しています。また、参加した経験を活かした「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」への応募も推奨しています。詳細は各地の国際協力推進員にご相談ください。

### 会場

**独立行政法人**
**国際協力機構 九州国際センター（JICA九州）**

福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1（JR鹿児島本線八幡駅下車徒歩12分）
TEL093-671-6311（代表）　www.jica.go.jp/kyushu

### 参加条件

- **国際理解教育・持続可能な開発のための教育（ESD）・キャリア教育**に積極的に取り組んでいる学校、又は今後取り組む意欲がある学校。
- 学校長より参加の許可が得られること。
- 生徒の保護者から参加への同意が得られること。
- 生徒が過去に本プログラムに参加していないこと。
- 教員・生徒とも、事前・事後学習を含み、全プログラムに参加可能なこと。選考後の参加者交代は不可。

### 募集数

- 九州7県から最大7校

※1校につき、生徒2～3名（＋教員1名）での参加を基本とします。参加希望校が定数を超えた場合は、応募書類、県のバランス、新規希望校の優先等を考慮して選考します。

- 最少開催人数:20名

### 留意事項

- 昼食および夕食代は各自でご負担ください。なお、1日目の「国際交流パーティ」会費として、おひとり1,000円を徴収します。
- 学校所在地からJICA九州までの往復交通費、宿泊費はJICA九州が負担します。
- お車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。
- プログラムへの参加にあたり、JICA九州負担にて参加者全員、国内旅行傷害保険にご加入いただきます。万一事故が生じた場合、保険の給付範囲内で補償いたします。
- 宿泊はJICA九州宿泊棟となります。
- 動きやすい衣服での参加をお願いします。
- 個人都合（部活等）によるキャンセルはご遠慮ください。
- 筆記用具、健康保険証の写し、および緊急時の連絡先をご持参ください。

**応募方法**　**参加申込書をJICA九州ホームページよりダウンロードし、必要事項をご記入の上、以下の送付先まで郵送ください。（ URL:www.jica.go.jp/kyushu ）**

**送付先**　〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館3階 C号室
（特活）九州海外協力協会

**応募締切**　**2018年 6月 6日（水）［必着］▸ 6月 27 日（水）迄に結果通知**

**昨年度参加校実績**

| | |
|---|---|
| 福岡県 | 福岡工業大学附属城東高等学校，福岡雙葉学園高等学校 |
| 佐賀県 | 伊万里高等学校，唐津西高等学校， |
| 長崎県 | 佐世保西高等学校 |
| 熊本県 | 済々黌高等学校，東稜高等学校，八代高等学校 |
| 大分県 | 津久見高等学校 |
| 宮崎県 | 延岡星雲高等学校 |
| 鹿児島県 | 大島高等学校，鹿児島純心女子高等学校，川辺高等学校，武岡台高等学校，鳳凰高等学校 |

（学校用）

# JICA 九州高校生国際協力実体験プログラム参加申込書

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 参加日程 | 7/26～7/27 | | | |
| ふりがな | | | | |
| 高等学校名 | 立　　高等学校 | | | |
| 学校住所 | 〒 | | | |
| | TEL | | FAX | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 引率教師 | ふりがな | | 担当教科 | | 性別 | 男女 |
| | 氏名 | | | | | |
| | 現住所 | 〒 | | | | |
| | | TEL | | FAX | | |
| | | E-Mail | | 携帯 | | |
| 生徒1 | ふりがな | | TEL | | | |
| | 氏名 | | 学年 | 年生 | 性別 | 男/女 |
| | 現住所 | 〒 | | | | |
| 生徒2 | ふりがな | | TEL | | | |
| | 氏名 | | 学年 | 年生 | 性別 | 男/女 |
| | 現住所 | 〒 | | | | |
| 生徒3 | ふりがな | | TEL | | | |
| | 氏名 | | 学年 | 年生 | 性別 | 男/女 |
| | 現住所 | 〒 | | | | |

| | |
|---|---|
| 学校所在地から JICA 九州までの交通経路 | （バスを使用される場合は、運賃と会社名をご記入ください）<br>学校最寄（　　）線（　　）駅、または（　　）バス会社<br>（　　）バス停→<br>→JICA 九州 |

※公共交通機関をご利用ください

| | | | |
|---|---|---|---|
| 上記の者が、JICA 九州の「高校生国際協力実体験プログラム」に参加することを承認します。 | | | |
| 高等学校名 | | 日時 | 2018 年　月　日 |
| 学校長 | | | 印 |

【個人情報の取り扱いについて】
参加のお申し込みについて入手しました個人情報は、本プログラム実施に係る業務のみに使用いたします。また、当該情報は当機構にて厳重に管理し、正当な理由なく第三者への開示、譲渡及び貸与することは一切ありません。

送付先：〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 3-10-34　M ビル 3 号館 3 階 C 号室
（特活）九州海外協力協会

（学校用1）

# 参加申込書

独立行政法人　国際協力機構

九州国際センター　所長　殿

独立行政法人国際協力機構　九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

併せて、引率に当たっては、①九州国際センター在館期間を通して消灯・点呼を初め生徒の生活指導に当たること、②生徒のプログラムや JICA 関係者との意見交換にも積極的に参加すること、③申し込み後の引率者変更をしないことについて承諾します。

なお、旅費については下記の口座(※)にお振込願います。

※口座は学校の公金口座または引率教師の個人口座のどちらでも構いません。

年　　月　　日

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日：＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日　年齢：＿＿＿歳

振込口座

| | | | |
|---|---|---|---|
| 銀行名 | | 支店名 | |
| 口座番号 | 普通・当座 | | |
| ふりがな | | | |
| 名義人 | | | |

（学校用2）

＊次の質問にお答えください。スペースが足りない場合は別紙に記載してください。

| (1) 本プログラムへの参加動機を教えてください。 |
| --- |
| |

| (2) これまでの国際理解教育／開発教育に関する取り組み実績（教師・生徒単位または学校全体）での取り組みがあれば記載してください。 |
| --- |
| |

| (3) JICA では開発教育支援事業として出前講座、教師海外研修、エッセイコンテスト他のプログラムをご案内していますが、これまでご自身の学校で JICA の開発教育支援事業を活用されたことがあれば活用事例をご紹介いただくと共に、今後の活用計画を教えてください。 |
| --- |
| |

| (4) プログラムに参加された後、どのような取り組みを検討されているか記載してください。 |
| --- |

| |
|---|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| **(5)（昨年度も参加された学校のみにお聞きします）昨年度のプログラムに参加された後に開発教育/国際理解教育促進のために学校としてどのような取り組みをされてきたかを記載してください。** |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

（生徒保護者用）

# 参加申込書

独立行政法人　国際協力機構

九州国際センター　所長　殿

独立行政法人国際協力機構　九州国際センター主催「高校生国際協力実体験プログラム」の募集要項の内容について承諾し、同プログラムに参加を申し込みます。

年　　月　　日

申込者氏名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日　：＿＿＿＿年　　月　　日　年齢：＿＿＿歳

親権者または

保護者名　：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

本人との続柄　：＿＿＿＿＿＿

【参加にあたり心配事がある方はご記入ください（健康面、アレルギー等）】

※選考には影響ありません

# 2018年度　高校生国際協力実体験プログラム　アンケート（19名）

## 1日目（生徒用）

### [自己紹介・アイスブレイク]

□ **満足度**

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 13 |
| やや満足 | 5 |
| やや不満 | 1 |
| 不　満 | 0 |

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- 初めて会う人しかいないから緊張した。他の人ともすぐに打ち解けられるような話題作りとかができるようになりたいと思った。
- 最初どうなるか不安だったのでアイスブレイクを通して少し距離が縮まってよかったです。自己紹介でも目を合わせながら相手のことを知ることができました。
- みんな気さくで良い人で、活動しやすかったです。みんながガンガン意見を出してくれたので、私も意見が言いやすかったです。
- （発表が）１番最初だったためとても緊張していて、思ったように自己紹介が出来なかった。でもみんなやさしくきいてくれたのでとても楽しかった。

### [国際理解ワークショップ「このＴシャツはどこから来るの？」]

□ **満足度**

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 14 |
| やや満足 | 5 |
| やや不満 | 0 |
| 不　満 | 0 |

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

- 私たちが日常的に着ている「洋服」の背景に大変な思いをしている人がいたり、いろいろな問題を抱えている人たちがいることを知り、改めて日常の「モノ」の大切さを実感した。
- 服（ファッション）が環境へ悪影響を与えているのは意外だった。そして不当な賃金で働かされている子ども達がいる現状を実際現地で活動をされていた方から聞くことができ、社会の授業で習ったものよりも分かりやすく詳細に知れ、言葉に実際にいったことのある人ならではの重みがあった。
- 内容が少し難しかったけど、チームで協力して活動できた。みんなそれぞれ色々な考えを持っていてすごく勉強になった。自分の意見もうなずいて聞いてくれたり、

考えを付け加えたりしてもらえた。自分では思いつかないような考えをたくさん知ることが出来た。

・ 服を買うときに、この服の素材を作っている人たちのことを意識していこうと思った。

## ［青年海外協力隊活動計画作り］

### □ 満足度

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 12 |
| やや満足 | 6 |
| やや不満 | 1 |
| 不　満 | 0 |

### □ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 私たちのグループでは、なかなか意見がまとまらず、とても苦労しました。たくさんの課題を抱えているバリボ村でどこに着目していくか。どのように村人達と協力していくか、また実現可能か、将来性があるか、など難しかったです。必ずしも技術者を送ったり、インフラを整備して「いい村になったね」というわけではないんだと感じました。

・ 1つのことを解決しようとしたり、目標を定めると様々な問題がでてきて、誰に協力してもらい、どこから改善していこうかと考えると難しくなってとても悩みました。でも、班の人と話し合いながらできるところから改善していく過程はとても楽しかったです。

・ 全くの白紙の状態から海外で行なう活動の計画は大変だったけど、とても楽しかったです。自分ひとりでは気づかないことでも、何人かで話し合うことで発見することができました。

・ 自分たちで問題解決のための計画を立てた。そこではグループのみんなが気づいたことに対して意見をいい合って、すごく学ぶものがたくさんあった。

## ［国際交流パーティー］

### □ 満足度

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 14 |
| やや満足 | 4 |
| やや不満 | 1 |
| 不　満 | 0 |

### □ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ エチオピアという国のことを知れたこと、そして伝えようとすることの大切さを感じた。単語だけになってしまっても、研修生の人は理解しようとしてくれて、会話をすることができた。でも、もっと英語が話せるようになりたい！

・ 日本語が全く通じない海外の方と話したのは初めてでした。言語や文化の違いを学ぶことができました。
・ 私達の班にはインドの方が来てくださった。とても優しい方だった。インドの方とお話する機会は絶対にないのでとても良い経験になった。また、他の国の食事を楽しむこともできた。私は特に、チーズナンが気に入った。この味をみんなにも味わってほしい。
・ 外国の方の食事を共にするのは初めてだったが、とても打ち解けやすい人柄だったし、そういったことがしやすいプログラムを組んでいたこともあり、楽しめた。

□ **今日の感想や新しく知ったこと・もっと知りたかったこと・明日のプログラムに期待することなど、1日目を振り返って自由に書いて下さい。**

・ 最初、JICA に参加するとき知らない人としゃべれるかとか、色々不安はありましたが、1日を通してたくさん話せるようになったし、仲良くなることもできたので、とても嬉しかったです。青年海外協力隊計画作りは、もっとたくさん話し合って計画を練りたかったです。
・ 自分たちの班以外の班の人たちはどんな発想でどこに視点を向け、良くしようと考えているのかを聞くのがとても楽しみです。
・ 物事のプランを立てるのはとてもむずかしく、考えれば考えるほど、穴が出てきて大変だなと思った。
・ 計画発表の準備は着々と進み、残るは口頭での説明だけとなった。聞き手に分かりやすく伝えられるように意識して原稿を書かなければならない。明日の朝にも練習をするので今日は早めに寝たい。

## 2日目（生徒用）

### [青年海外協力隊活動計画発表]

□ **満足度**

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 15 |
| やや満足 | 4 |
| やや不満 | 0 |
| 不　満 | 0 |

□ **感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述**

・ 準備が完璧だったとは言えないが、班の他の2人とも協力してできる限りの発表はできたと思う。質疑応答で新たな課題が見つかったのも良かった。
・ 前の日からチームで練習していた成果を十分に発揮することができた。私達の計画を村の人達にわかりやすく伝えるため気持ちを込めて発表することができた。見事

最優秀賞を取ることができた。とても嬉しかった。チームのみんなに感謝。

・ 他のところの意見をきいて色々感じることがあった。得ることもたくさんあった。

・ 3人という1人少ないグループで、知恵を出したり意見を出し合ったりすることに、時間がかかった。しかし時間がたつにつれ、3人とも意見をたくさん出せるようになった。自分のからを破れたと思う。

## [振り返り]

### □ 満足度

（人）

| | |
|---|---|
| 満　足 | 19 |
| やや満足 | 0 |
| やや不満 | 0 |
| 不　満 | 0 |

### □ 感想や学んだこと、気付いたことなど自由記述

・ 2日間をしっかりと振り返り、これからの活動まで明確にすることができた。

・ 2日とても楽しかった。自分の知らないことをたくさん学べた。私は2日間を通して、まず知ることが大事だと思った。私たちが学んだことを学校のみんなにも知ってもらうためにポスターや放送を通して発信していきたい。

・ 学校で書いたウェビングの図がもっと大きくなったのが嬉しかったです。学校、日常の目標を意識して生活したいです。

・ 各校の特色を感じた。九州内の仲間たちですが、九州にとどまらず、日本、そして世界へと継いでいけたらと思います！「人と人は出会うことができる!!!」

### □ 2日間を通して、このプログラム全体の満足度は_____パーセント（%）

（人）

| | |
|---|---|
| 100%以上 | 11 |
| 90-99% | 6 |
| 80-89% | 2 |
| 79%以下 | 0 |

**満足度の理由**

【100%以上】

・ 私は事前に国際協力について勉強し、少しは分かっていたつもりでいた。しかし、今回のプロジェクトを通して、まだまだ自分は分かっていたふりでいたことがわかった。発表の質問の際、他のチームからの疑問点、同じチームからの意見で様々な視点からの考えを共有することができた。

・ この2日間、最初はとても不安だったけれど、すごく良い仲間に出会えて、楽しんで学ぶことができました。このような場を用意してくださり、ありがとうございま

した!!

【90-99%】

・ 今回の実プロは私にとって初めてのことが多く、とても勉強になりました。しかし、私自身が至らずうまく伝えることができなかった部分が心残りなので、98%です。

・ 国際交流パーティーでは自分の英語力に自信を持つことができたし、活動計画では班の皆と協力して１つの案に導くことができたけど、高１で一番年下だから自分の意見を言うことができなくて90%になりました。

【80-89%】

・ 全体的にだいたいうまくいったから。

・ 高校１年生だったので、緊張しすぎていたなと思います。しかし、学ぶべきことは多く学べたのではないかと実感しています。その半面、今まで自分が何も知らなかったなと反省しています。将来、海外で困っている人々の力になれる仕事に就きたいなと思いました。

**□ 一番印象に残ったプログラムは何ですか。その理由を記入してください。**

（人）

| | |
|---|---|
| 国際交流パーティー | 10 |
| 青年海外協力隊活動計画づくり | 5 |
| 青年海外協力隊活動計画発表 | 2 |
| 国際理解ワークショップ（このＴシャツはどこから来るの？） | 2 |

[国際交流パーティー]

・ 異国語とたくさん触れる貴重な機会となりました。自分の知識の幅が広がり、とてもよかったです。自分もいつか、青年海外協力隊として、エチオピアに行きたいなと思いました。

・ 外国の方と食事をするのはもちろん、あれだけ自由にコミュニケーションを取ったのは初めてだったため、最も印象に残った。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ １つの課題についてグループのみんなで話し合うことができ、自らの意見をうまく伝えることができてよかった。知らない学校の人ともこのプログラムで話せるようになり、協力して話し合いができたのでよかった。すごくいいプログラムだと思った。

・ 全然話がまとまらずに本当に終われるか心配な面がたくさんあったけど最後は班のみんなが笑顔で終われてとても印象に残った活動だったから。

[青年海外協力隊活動計画発表]

・ 自分たちの班の発表と違う班の発表の内容や仕方の違いに驚いたし、素晴らしいアイデアを出している班に感心したりもした。また、今まであまりやってこなかったプレゼンをする経験を、仮青年海外協力隊として積むことができたのが自分の中で貴重なことだと思うから。

・ 工夫できた（多分）きんちょうしましたが「ていたん賞」を取ることが出来、満足

しました。国際的な課題にどう取り組むかなんてとても難しいことだということがとても分かりました。ODA の人とかいつも問題を解決しようと頑張っている人たちを尊敬します。あと感謝したいです。

［国際理解ワークショップ（このＴシャツはどこから来るの？）］

・ 私たちのあたり前のことが世界のとあるところではあたり前じゃなくて、大変なおもいをしている人がいることにおどろき、どうにかしたいなと思ったから。
・ 自分は経営学のある大学に進学を希望していて、その中で今は、海外の進出が注目されているが、その背景で企業はたくさんの方々の生活をになう必要があると知ることができた。とてもよい経験になった。

**□ 最後に何か書きたいこと、伝えたいことなどがあれば自由に書いて下さい。**

・ できれば１年後もっと成長した姿でこのプログラムに参加したい。非常に濃い時間だった。
・ ２日間という短い時間でしたが、ありがとうございました。たくさんのことを学べたし、他の人と協力し、何か１つのことをつくりあげることの楽しさを知ることができました！ とてもいい経験になりました !!!
・ 一泊二日という本当に短い時間でしたが、私たちが楽しく学べる環境を提供してくださり、本当にありがとうございました。

# 2018年度　高校生国際協力実体験プログラム　アンケート（7名）

## 1日目（教員用）

**1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。**

[学校紹介]

・ 他校の様子や特色を知ることができてよかったです。工夫してきれいにまとめている学校も多く、もっと準備すればよかったと思いました。

・ それぞれの学校がとても充実した壁新聞を作っており、良かったと思います。学校紹介の時に「参加した目的」や「終了時の目標・計画」を発表すると、より目的意識を持って参加できるのではないかと思いました。

[アイスブレイク・自己紹介]

・ 言葉を用いずに身振り手振りで誕生日を伝えて並ぶのは面白いです。学校でも入学時や進級時の自己紹介で使わせてください。残念だったのは、全くの偶然で本校生が3名並んでしまったこと。「同じ学校の人が隣り合った場合は・・・してください」の指示があれば更に良かったと思います。

・ 言葉を使わずに誕生日ごとに並ぶというアイスブレイクは非常に効果的だったと思います。言葉を使わない分、オーバーリアクションになったり、しゃべらなければいけないというプレッシャーからも開放され、より親密になれる方法であった。また、誕生日が同じ、もしくは近いという話題からさらなるコミュニケーションが生まれるので効果的である。

・ 動作だけのコミュニケーションはGOOD。

[国際理解ワークショップ「このTシャツはどこから来るの？」]

・ 服装に詳しい方がTシャツのワークショップをするというのはいいなーと思いました。専門知識と経験に裏打ちされていて、説得力があったと思います。隊員時代の実際の写真等、心に響いたことと思います。

・ 体験談とロールプレイングによって、ファッションという自分に身近なものが児童労働の問題など、弱者の搾取につながることがよくわかった。エシカル・ファッションという言葉自体を知らなかったので勉強になった。

・ Tシャツの値段の内分けがどうなっているのか推測してみるのも、身近なものを取り上げているので考えやすかった。いきなり「国際協力とは何でしょう？」ではなく、生徒の目線から思考を促すのは大事ですね。

[青年海外協力隊活動計画作り]

・ 実際に協力隊に行ったかのような感覚で作業を進めることができた。実際は、細やかな情報収集に非常に時間がかかるのだが、高校生にとってはあれぐらいしっかり

と情報を与えられていた方が考えやすかったと思う。

・ 生徒たちと全く作業が一緒だったのは驚きましたが、他校の先生方と協力して課題に取り組むことは滅多にないために、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございます。但し、教員団も忙しすぎて、生徒たちの活動を観察したり、写真を撮ったりする暇がなかったのは少々残念でした。

・ 先生方と力を合わせて行った活動作りは大変楽しかった。教員チームは何やかんやとワイワイ言いながらの作成だったが、生徒たちは静かに黙々と作業を続けていたのが頼もしかった。

[ 国際交流パーティー ]

・ 食事一つで立派なワークショップになるのだなと考えを新たにした。食事自体も大変おいしく、クスクスは本場の味を思い出させるすばらしいものでした。

・ 日本に研修に来ている方々と英語での交流は生徒たちも楽しみにしていました。少人数で対応出来て、有意義な時間であったと思います。

・ 生徒たちにとっては、すごく意義深い時間だったと思います。生徒が普段接する外国の方は、ALT など、生徒をもてなし、楽しませてくれる方ばかりです。生徒の方から話題を提供し、言葉を引き出す経験は学校ではできないことで、本当にありがたかったです。

[ そ の 他 ]

・ スタッフの方がそれぞれの民族衣装で、それぞれの言葉で自己紹介をして下さったのがとても素敵でした。

・ 事前学習の時は結構英語を使うと聞いていたので実際参加して少し戸惑いました。個人的には可能であれば英語使用割合を増やしていただけたらと思いますし、未知の言語を使ったアクティビティとかもやっても面白いのではと思います。

・ 今回から人数などが縮小されたようですが、実際にこれだけのプログラムを実践するには適切な人数のように思いました。

・ 生徒参加数 19 名。宇土高校では希望者多数で 3 名に制限したので少し残念です。募集方法を 3 人 1 グループで推薦順位をつけさせて、班分け（今回 5 ～ 7）の数まで 1 高校から参加させても良いのでは。

## ２日目（教員用）

**1. 各プログラムの感想・意見・改善点などをご自由にご記入ください。**

[ 計画発表 ]

・ JICA の方の質問のおかげで、いろいろな問題点が見えてきてとてもおもしろかったです。さらに改善点を考えたり、計画をたてなおしたりするといいと思いました。

学校に返って考えさせたいと思います。SDGs の関係にもつなげていきたいです。

・ プレゼンをする相手の設定など、直前にきいていたけれど、生徒たちはよく対応できていたと感心した。また、JICA の職員の方々のあたたかい中にも厳しいご指摘が、この研修の成果の発表会を実りのあるものにしていただけた。
・ それぞれのグループ、よく調べてまとめていました。（夜遅くまで）最初に話題にした内容を後半に活かせるように考えるグループがいなかったのはちょっと残念かな。

［振り返り］

・ 時間が許されれば、他のチームが感想を述べたり批評できる機会があると、もっと他者との考えの共有や違いの気付きが出来たように思います。
・ 最近は高校生でもパワーポイントを用いたプレゼンが主流になりつつありますが、手書きのポスターを用いるプレゼンの良さを再確認できました。これならば全員で用紙を囲み、知恵を出し合って作れますが、PC ならば担当者だけ。そもそも現地では PC が使えない可能性もありますね。
・ この 2 日間グループで行動したこと（学校単位でなく）は、一人一人の生徒にとって、とてもいい経験と自信につながったと思います。最後の 10 分間もとても楽しそうにしていたのが印象的でした。

**2．2 日間を通してこのプログラムの満足度は □ パーセント**

（人）

| | |
|---|---|
| 100%以上 | 4 |
| 90-99% | 2 |
| 80-89% | 1 |

理　由：

・ 生徒たちが日頃できない経験をし、力のある他校の生徒さんたちと活動を共にすることで大きく成長できたと思います。学校での国際協力の取り組みも、さらに充実させていけるイメージを持つことができました。ありがとうございました！
・ 生徒に日頃なかなかできない体験をさせていただいたことと、自分自身にとっても、国際協力についてファシリテーターのあり方についてなど学んだことが多かった。他校の先生方との協働も貴重な経験となった。
・ 交流パーティーでは引率教員もゲストの研修員の皆さんとお話する時間があると思っていたのですが、なかったのでマイナス 10。生徒主体ですから仕方ありません。
・ 研修にほぼほぼ参加すると考えていなかった分、マイナス 20%。

## 3．全体の流れ、時間配分は適切でしたか？

（人）

| | |
|---|---|
| とても良かった | 3 |
| 良かった | 4 |
| あまり良くなかった | 0 |
| 良くなかった | 0 |

理　由：

**【とても良かった】**

・ 時間の区切りが明確だったので、作業しやすかったです。

・ もし可能であれば2日目の開始を30分早め、お昼後も14：00～15：00頃まで活動ができるとせっかくの機会なのでいいかなと思います。（遠方の高校は大変ですが、応募の段階で分かっていればいいと思います。）

**【良かった】**

・ 全体の流れについてはとても良かったと思います。午後の活動計画作りでは早朝起床、出発のツケが回ってきて、疲れや睡魔に襲われました。休憩の回数や時間にもうひと工夫あると助かります。

・ やることがたくさんあって充実していました。もう少しプログラムに余裕があるとほしかったです。

## 4．来年度の高校生国際協力実体験プログラムに向けて、改善点をご記入ください。

・ たとえば、各グループに担当の協力隊員さんについて頂いて、活動のお話を聞いたり、アドバイザーになって頂いたりすると、よりグループの活動がもり上がってくるのではないかと思いました。生徒達も、もっと協力隊員さんと関わりたかったようで、とても興味を持っていました。

・ 少ない人数だからこそ、密な研修であったと思いますが、もう少し参加させたい気持ちが大きい。大変かと思いますが、複数回（夏休み前期7月末、後期8月盆頃）実施。

・ 内容はとても良かったと思います。2日目の朝はスタートを早めても高校生は大丈夫だと思いました。

・ 八幡がやや遠いので、実プロに限らず熊本あたりで開催するときもあると助かります。班活動の時、各グループに教員でなく推進員の方に入っていただいてはどうでしょうか。

## 5．今後、事後学習として取り組みたいこと、生徒たちと進めていきたいことをご記入ください。

・ 参加生徒のレポートを学級通信で保護者に紹介。エッセイコンテスト2018に応募。可能であれば文化祭でのポスター発表。

・ SDGsについてより多くの生徒に伝えること。Active Learning。世界の国々の現状

をより知る機会を増やす。

・ エッセイコンテストへの応募。インターアクト部生への活動報告。プログラムの再現。エコキャップ運動。シューズ寄付など、今の活動を広めたり、SDGs にからめた取り組みとしてとらえ直し、広報したりする。

・ まずは秋の文化祭での展示発表を皮切りに、国際協力、特に SDGs についての校内の認知度を高めたい。

## 6．JICA の開発教育支援にどのような役割を期待しますか。

・ 教員にはなかなか指導できない国際協力、国際貢献分野からは JICA との協働が欠かせないと思います。しかし JICA に支援を求められることを知らない教員も多いのが残念ですので、より積極的に情報を発信していただき、多くの教員がアプローチできるようになればいいと思います。

・ 誰でも、特に普段外国の方々や JICA 等の国際協力イベントに参加しづらい地域に住む人が参加応募できるイベントやプログラムを企画してほしいです。（このプログラムもその一つになるかと思います）

・ 国際協力をすることも、国際協力を学ぶことも、継続が大事だと思います。今回、事前研修をして頂いたように、何度か段階を経ながらの教育支援をして頂けると、学校での学びも充実したものになると思います。

・ 申込書関係書類を読んでいなかったこちらは、引率中心と考えておりました。生徒同様にプログラムに参加を行うことを前もって（申し込み段階で）判っていると良いと思います。お世話になりました。

・ これまで同様、頼りになるアドバイザーでいてください。

## 7．県立学校等初任者研修に係る学校による体験活動研修参加教師から見た成果と課題

※ 福岡県立戸畑高等学校の河津凌教諭には実施スタッフの一員として参加していただいたが、今後参加校引率教師の立場にもなり得ることを念頭に引率教師の視点も踏まえた成果と課題を報告していただいた。

発展途上国における支援、という決まった答えのない課題に対して、生徒にどのように考えさせていくのか、どのような支援を行えば良いのか、考えることができた。また、海外から JICA に来ている研修員と話をすることができたので、現在どのような知識が必要となっているのかを尋ねることができた。本校生徒の国際協力への関心を高めるため、今回の経験を伝えていきたいと思う。

課題として、国際協力に関する自分自身の知識不足を痛感したので、もっと増やさなければならないと思った。外国語の知識はもちろん、海外情勢についても最新の情報を絶えず収集しておくべきだと感じた。また、プレゼンテーションの実施方法や指導、評価方法についても工夫しなければならないと思った。

ジャイカ
JICA